

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング
【施策番号 24106：低炭素社会のための社会シナリオ研究（文部科学省）】

- 1 日時：平成 22 年 10 月 1 日 16：20～16：40
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室
- 3 聴取者：相澤議員、奥村議員、白石議員
外部専門家 14 名（うち若手 5 名）
- 4 説明者：環境エネルギー課 田口康課長
- 5 施策概要

二酸化炭素排出削減に係わる新技術の研究開発動向にも着目しつつ、環境エネルギー技術体系、産業構造、社会構造、生活様式等の相互連関や相乗効果の検討等を行うことにより、持続可能で活力ある低炭素社会の実現に向けた社会システム改革や研究開発の方向性の提示を目的とした総合戦略を策定する。

6 質疑応答模様

【相澤議員】

JST 低炭素社会戦略センターの重要なミッションの 1 つは、文部科学省が推進する低炭素社会に向けての研究開発を、シナリオに基づいて、かつ戦略的に実施するための支援だと理解している。今回の増額の根拠として、農林水産省のバイオマスタウンの再生支援を挙げているが、文部科学省全体が低炭素社会に向かって、省内の改組も含めて、大きく進もうとしているところなので、それを強力にバックアップするというのがプライオリティではなからうか。

【文部科学省】

一番バリアになっているところを開発すれば、新しい技術になるので、外部と連携して進めていきたい。バイオマスタウンもなかなか難しい部分もあるので、この施策の一部に入れている。

金額的には、8 テーマのうち「低炭素社会関連研究の構造化と情報発信」、つまりバイオマスタウンの部分が一番大きいですが、「低炭素社会実現の技術開発と普及に関する戦略」も 4000 万円くらい増額し、ここに重点を置く要求にした。

【奥村議員】

10 年間の事業になっているが、その間に世の中は変わる。特定のテーマを決めて、この 10 年間のうちにあるタイミングでレポートを出し、かつ、その成果を政策に活用する、とすれば活きると思うが、いかがお考えか。

【文部科学省】

文科省としては、JST 低炭素社会戦略センターの研究のアウトプットを技術開発戦略の中に取り込んでいくつもりだ。政府全体の社会シナリオについては、振興調整費の社会改革プログラムにも結果を取り入れていきたい。環境省、経済産業省の両方にデータを出しているため、今も一部は反映されている。センターの研究成果が政府の施策になるべく反映されて

いくように、少なくともその情報が関係部署に伝わるように努力していきたい。

【外部専門家】

成果のアウトプットだが、この成果によって直接低炭素社会になるわけではないので、成果を使ってもらうことが低炭素社会に役に立つということだと理解する。この辺のつながりをもう少し明確にしたほうがよい。それから、バイオマスタウン再生のコンサルタント業のように見えなくもないので、もう少し表現を工夫すべきだ。

【文部科学省】

1つは環境モデル都市について、そのハブ機能としていろいろな相談に応じているところだ。政界、官界の質問にも対応しているので、成果は生きてきている。タイミング良く中間報告を出し、低炭素社会の政策に役に立てたい。それは十分意識している。

【外部専門家】

農林水産省としてバイオマスタウンが重要なのは解るが、京都議定書や地球環境という枠組みで見れば、森林あるいはバイオマスをもっと包括した林産業といった社会システムを加えて考えることが重要ではないか。バイオマスタウン再生は末梢的ではないかという印象を受ける。

【文部科学省】

社会シナリオ研究全体の話とバイオマスタウンはフェーズの違いだ。バイオマスタウン自体は、農水省だけでなく政府全体のバイオマス活用推進基本法の中の課題として出てきた。その中で、文科省も出来る限り協力すべきということなので、大学や研究機関にある情報をきちんと自治体に出していきたい。JST は、大学の研究成果のデータベースを持っており、このシナリオ研究と併せて支援しようと考えている。政府全体として出口を考えたとき、バイオマスタウンの再生に協力していくという立場を強く出した説明にならざるをえないということをご理解いただきたい。

以上